

1 調査遺跡について

(1) 遺跡名

神倉 後口山遺跡 (かんのくら うしろやまいせき)

(2) 遺跡の概要

神倉後口山遺跡は、三朝町神倉地内に所在する、中世(平安時代後期から鎌倉時代)の修験道遺跡です。

学術的な確定要素は少ないものの、三徳山周辺の信仰の歴史を考える上で、非常に注目されている遺跡です。

【始まりは、地域に伝わる「不思議な場所」の話から】

「神倉の山の中に、石が多く積まれ草が生えない不思議な場所がある」…そんな地元の方からの情報がきっかけで三朝町による調査が始まりました。

その地には修験(山を特別な場所と考え、お祈りや瞑想などの修行を行うこと。)にまつわる名前が多く残り、かつては神倉側からも三徳山へ通じていたという、深い関わりが伝えられています。

【姿を現した人工的な「構造物」】

平成23年からの調査により、山の中で人の手によって作られたと思われる構造物(石列)がたくさん確認されました。

中世の三徳山などを巡る修験者の修験場が当時のまま残されていると考えられ、この地において、かつて組織的で大規模な修行や儀礼の空間が広がっていたことが明らかになりつつあります。

【「遺物が出ない」というミステリー】

通常、遺跡からは当時の道具(土器など)が見つかりますが、ここでは裏付けとなる遺物がほとんど発見されていません。それは、修験の場では、持ち込んだ道具は必ず持ち出すという作法があり、後に残りにくい性質があるためです。

そのため、いつ誰がこの場所を築いたのか、詳細な時期や変遷は未だ謎に包まれています。



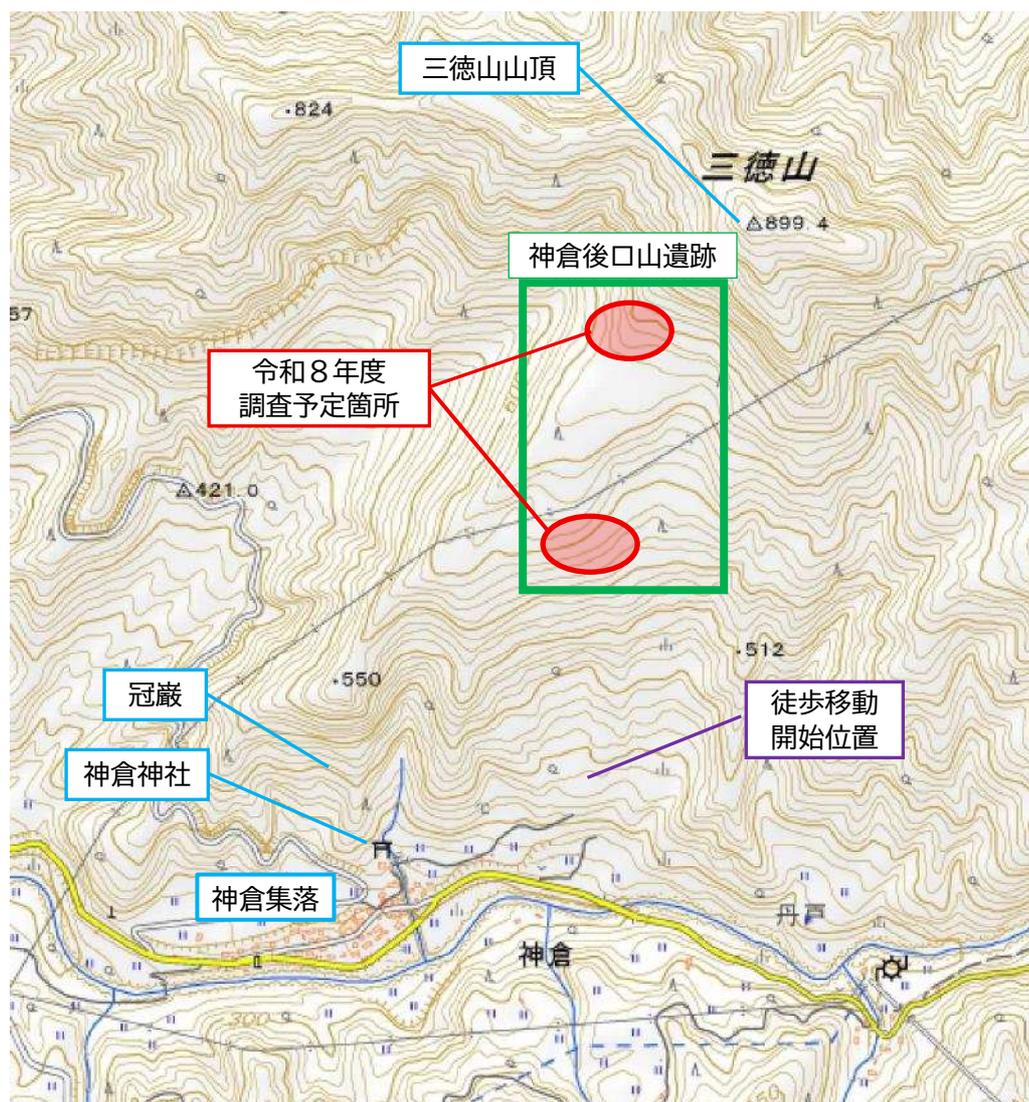
遺跡内「湯地点」にある磐座。
(神が降臨されるとされる岩)
後方の山は三徳山(山頂)。



遺跡内「イケガナル地点」の様子。
規則的に石が並べられており、
この石を礎石にした建物があったと考えられる。
左に同じく後方の山は三徳山(山頂)。

2 発掘現場について（位置図）

発掘現場まで山中の傾斜地を片道1時間程度、徒歩で移動します。



出典：国土地理院地図（電子国土 web）

3 調査体制について

本調査は、三朝町教育委員会（担当 社会教育課）が調査主体として実施しています。

また、本調査は日本山岳修験学会 理事の山本義孝氏よりご指導をいただきながら進めており、山本氏による現地での調査指導も定期的に予定されています。